

# 離散数理工学 第7回

離散代数：対称性を考慮した数え上げ (基礎)

岡本 吉央

okamotoy@uec.ac.jp

電気通信大学

2022年11月29日

最終更新：2022年11月21日 18:40

## 今日の目標

置換群を用いて **対称性を考慮した数え上げ** ができるようになる

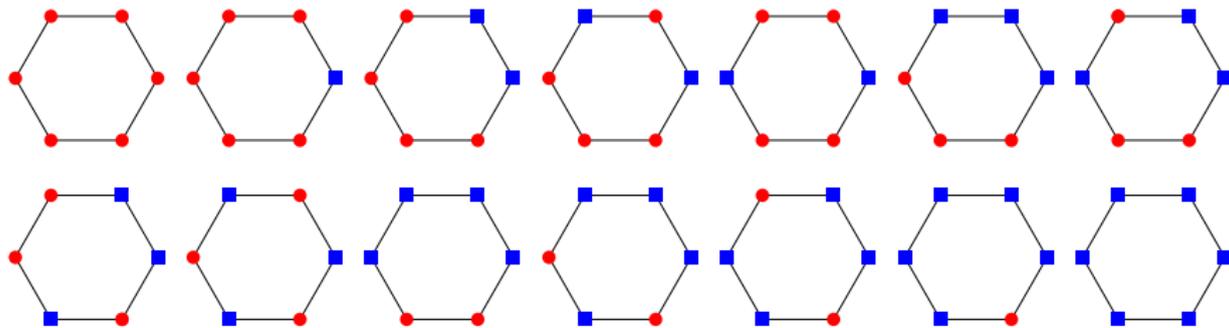
- ▶ 着色の数え上げ
  - ▶ 例 1：平面の回転対称性 ↪ 巡回群
  - ▶ 例 2：平面の回転・鏡映対称性 ↪ 二面体群
- ▶ 制限された着色の数え上げ
  - ▶ 例 3：全単射 (円順列)
  - ▶ 例 4：色数を固定した着色
  - ▶ 例 5：配置を制限した着色

道具：バーンサイドの補題

## 例 1 : 平面上の回転対称性を考慮した数え上げ

### 例題 1

正六角形の頂点を 2 色で塗り分ける方法は何通りあるか？  
ただし，回転によって一致するものは同じであるとみなす



バーンサイドの補題 を用いて，これを解決したい

## 目次

## ① 前回の復習

## ② 着色と置換群

## ③ 着色と置換群：例

平面上の回転対称性を考慮した数え上げ

平面上の回転・鏡映対称性を考慮した数え上げ

## ④ 制限された着色と置換群

## ⑤ 制限された着色と置換群：例

円順列

色数を固定した着色

配置を制限した着色

## ⑥ 今日のまとめ

## 軌道

有限集合  $X$ , 置換群  $G \subseteq S_X$

定義：軌道とは？

要素  $x \in X$  の  $G$  による **軌道** とは, 次の集合

$$\text{Orb}_G(x) = \{\pi(x) \mid \pi \in G\} \subseteq X$$

例：  $G = \left\{ \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 1 & 2 & 3 & 4 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 3 & 4 & 1 & 2 \end{pmatrix} \right\}$  のとき

$$\text{Orb}_G(1) = \{1, 3\}, \text{Orb}_G(2) = \{2, 4\}, \text{Orb}_G(3) = \{1, 3\}, \text{Orb}_G(4) = \{2, 4\}$$

$G = \left\{ \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 1 & 2 & 3 & 4 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 1 & 2 & 4 & 3 \end{pmatrix} \right\}$  のとき

$$\text{Orb}_G(1) = \{1\}, \text{Orb}_G(2) = \{2\}, \text{Orb}_G(3) = \{3, 4\}, \text{Orb}_G(4) = \{3, 4\}$$

## 軌道による分割

有限集合  $X$ , 置換群  $G \subseteq S_X$ , 要素  $x, x' \in X$

性質：軌道による分割

$$\text{Orb}_G(x) \cap \text{Orb}_G(x') \neq \emptyset \Rightarrow \text{Orb}_G(x) = \text{Orb}_G(x')$$

つまり,  $\{\text{Orb}_G(x) \mid x \in X\}$  は  $X$  の分割

例 :  $G = \left\{ \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 1 & 2 & 3 & 4 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 3 & 4 & 1 & 2 \end{pmatrix} \right\}$  のとき

$$\text{軌道による分割} = \{\{1, 3\}, \{2, 4\}\}$$

$$G = \left\{ \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 1 & 2 & 3 & 4 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 1 & 2 & 4 & 3 \end{pmatrix} \right\}$$
 のとき

$$\text{軌道による分割} = \{\{1\}, \{2\}, \{3, 4\}\}$$

1	2
3	4

1	2
3	4

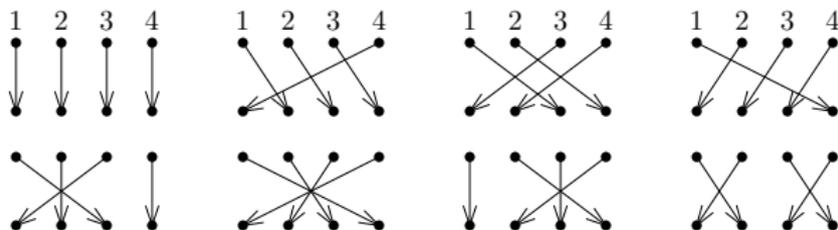
## 不動点集合

有限集合  $X$ , 置換群  $G \subseteq S_X$ , 置換  $\pi \in G$

定義：不動点集合

$X$  における  $\pi$  の **不動点集合** とは

$$\text{Fix}(\pi) = \{x \in X \mid \pi(x) = x\}$$



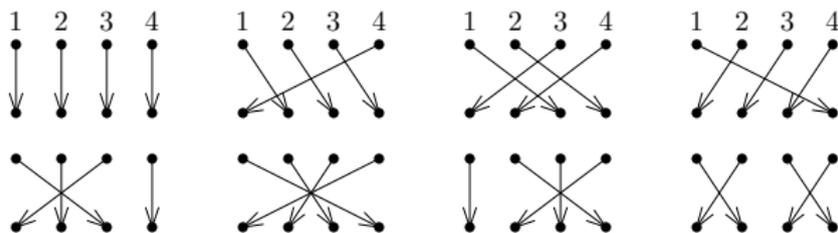
## バーンサイドの補題

有限集合  $X$ , 置換群  $G \subseteq S_X$

性質 : バーンサイドの補題

$$|\{\text{Orb}_G(x) \mid x \in X\}| = \frac{1}{|G|} \sum_{\pi \in G} |\text{Fix}(\pi)|$$

例 :  $|D_8| = 8$



▶ 左辺 = 1

▶ 右辺 =  $\frac{1}{8}(4 + 0 + 0 + 0 + 2 + 0 + 2 + 0) = 1$

## 目次

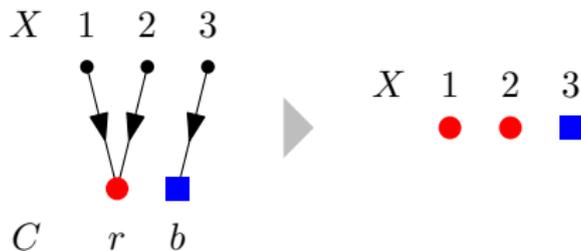
- ① 前回の復習
- ② 着色と置換群
- ③ 着色と置換群：例
  - 平面上の回転対称性を考慮した数え上げ
  - 平面上の回転・鏡映対称性を考慮した数え上げ
- ④ 制限された着色と置換群
- ⑤ 制限された着色と置換群：例
  - 円順列
  - 色数を固定した着色
  - 配置を制限した着色
- ⑥ 今日のまとめ

## 着色

有限集合  $X, C$ 

着色をちゃんと定義する

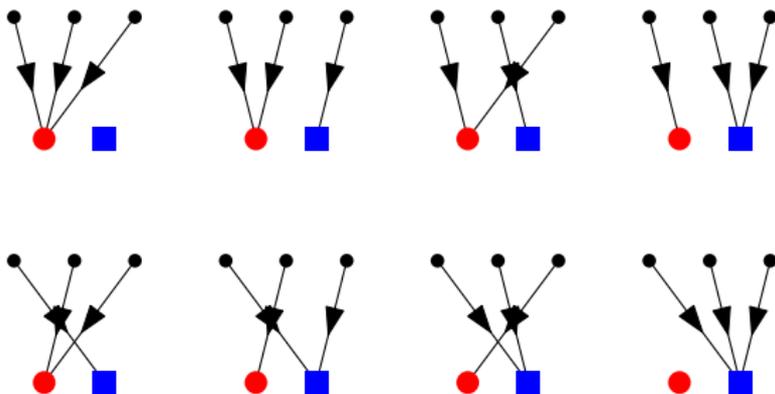
$X$  の要素の  $C$  の要素による **着色** とは  
写像  $\varphi: X \rightarrow C$  のこと

例:  $X = \{1, 2, 3\}$ ,  $C = \{r, b\}$  $C$  を色の集合であると見なしている

## 着色の集合

有限集合  $X, C$ 

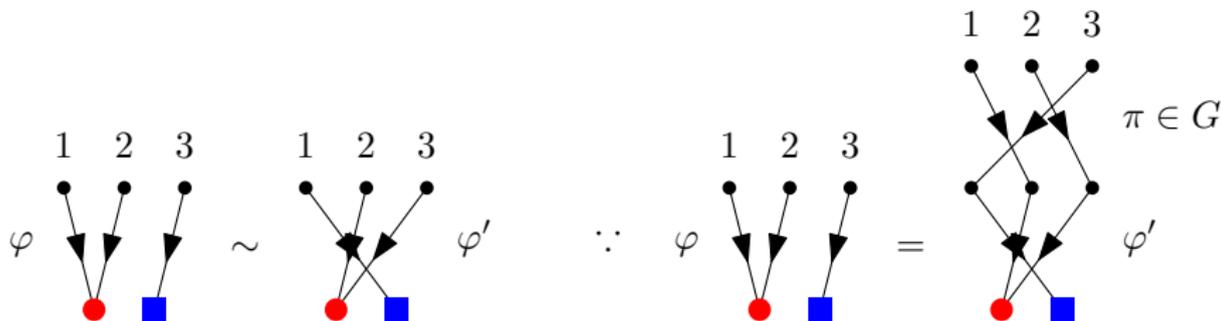
記法：写像の集合

 $X$  から  $C$  への写像全体の集合を  $C^X$  で表す例： $X = \{1, 2, 3\}$ ,  $C = \{r, b\}$ 注： $|C^X| = |C|^{|X|}$

定義：着色の  $G$  同値性有限集合  $X, C$ , 置換群  $G \subseteq S_X$ 記法：着色の  $G$  同値性2つの着色  $\varphi, \varphi' \in C^X$  が  **$G$  同値** であることを, 次で定義する

$$\varphi \sim \varphi' \Leftrightarrow \text{ある置換 } \pi \in G \text{ が存在して, } \varphi = \varphi' \circ \pi$$

例 :  $G = C_3 = \left\{ \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 1 & 2 & 3 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 3 & 1 & 2 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 2 & 3 & 1 \end{pmatrix} \right\}$  とする



着色の  $G$  同値性 : 同値関係有限集合  $X, C$ , 置換群  $G \subseteq S_X$ 性質 :  $G$  同値性は同値関係 $G$  同値性は着色全体の集合  $C^X$  上の同値関係である, つまり, 次を満たす

- 1 任意の  $\varphi \in C^X$  に対して,  $\varphi \sim \varphi$  (反射性)
- 2 任意の  $\varphi, \varphi' \in C^X$  に対して,  $\varphi \sim \varphi'$  ならば  $\varphi' \sim \varphi$  (対称性)
- 3 任意の  $\varphi, \varphi', \varphi'' \in C^X$  に対して,  $\varphi \sim \varphi'$  かつ  $\varphi' \sim \varphi''$  ならば  $\varphi \sim \varphi''$  (推移性)

証明 : 3つの性質を一つずつ確認する (次のスライドから3ページ分)

着色の  $G$  同値性 : 同値関係 — 反射性

有限集合  $X, C$ , 置換群  $G \subseteq S_X$

性質 :  $G$  同値性は同値関係

$G$  同値性は着色全体の集合  $C^X$  上の同値関係である, つまり, 次を満たす

1 任意の  $\varphi \in C^X$  に対して,  $\varphi \sim \varphi$  (反射性)

証明 : 任意の  $\varphi \in C^X$  を考える

- ▶ 恒等置換  $e$  に対して,  $e \in G$  かつ  $\varphi = \varphi \circ e$ .
- ▶ したがって,  $\varphi \sim \varphi$  □

復習 :  $\varphi \sim \varphi' \Leftrightarrow$  ある置換  $\pi \in G$  が存在して,  $\varphi = \varphi' \circ \pi$

着色の  $G$  同値性：同値関係 — 対称性有限集合  $X, C$ , 置換群  $G \subseteq S_X$ 性質： $G$  同値性は同値関係 $G$  同値性は着色全体の集合  $C^X$  上の同値関係である、つまり、次を満たす

2 任意の  $\varphi, \varphi' \in C^X$  に対して、 $\varphi \sim \varphi'$  ならば  $\varphi' \sim \varphi$  (対称性)

証明：任意の  $\varphi, \varphi' \in C^X$  を考える

- ▶  $\varphi \sim \varphi'$  と仮定する
- ▶ ある  $\pi \in G$  が存在して、 $\varphi = \varphi' \circ \pi$  となる
- ▶  $G$  は置換群なので、 $\pi^{-1} \in G$  となり、 $\varphi' = \varphi \circ \pi^{-1}$
- ▶ したがって、 $\varphi' \sim \varphi$  □

復習： $\varphi \sim \varphi' \Leftrightarrow$  ある置換  $\pi \in G$  が存在して、 $\varphi = \varphi' \circ \pi$

着色の  $G$  同値性：同値関係 — 推移性

有限集合  $X, C$ , 置換群  $G \subseteq S_X$

性質： $G$  同値性は同値関係

$G$  同値性は着色全体の集合  $C^X$  上の同値関係である、つまり、次を満たす

- 3 任意の  $\varphi, \varphi', \varphi'' \in C^X$  に対して、 $\varphi \sim \varphi'$  かつ  $\varphi' \sim \varphi''$  ならば  $\varphi \sim \varphi''$   
(推移性)

証明：任意の  $\varphi, \varphi', \varphi'' \in C^X$  を考える

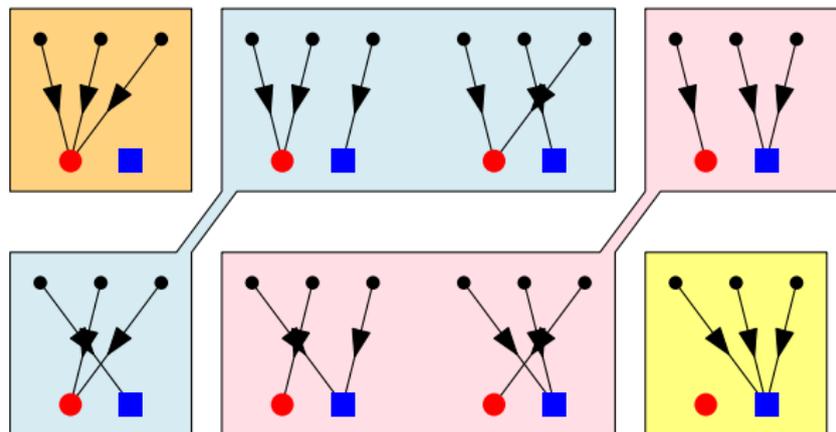
- ▶  $\varphi \sim \varphi'$  かつ  $\varphi' \sim \varphi''$  と仮定する
- ▶ ある  $\pi, \pi' \in G$  が存在して、 $\varphi = \varphi' \circ \pi$  かつ  $\varphi' = \varphi'' \circ \pi'$  となる
- ▶  $G$  は置換群なので、 $\pi' \circ \pi \in G$  となり、 $\varphi = \varphi' \circ \pi = \varphi'' \circ \pi' \circ \pi$
- ▶ したがって、 $\varphi \sim \varphi''$  □

復習： $\varphi \sim \varphi'$   $\Leftrightarrow$  ある置換  $\pi \in G$  が存在して、 $\varphi = \varphi' \circ \pi$

## G 同値性から得られる分割 (1)

## 『離散数学』の復習

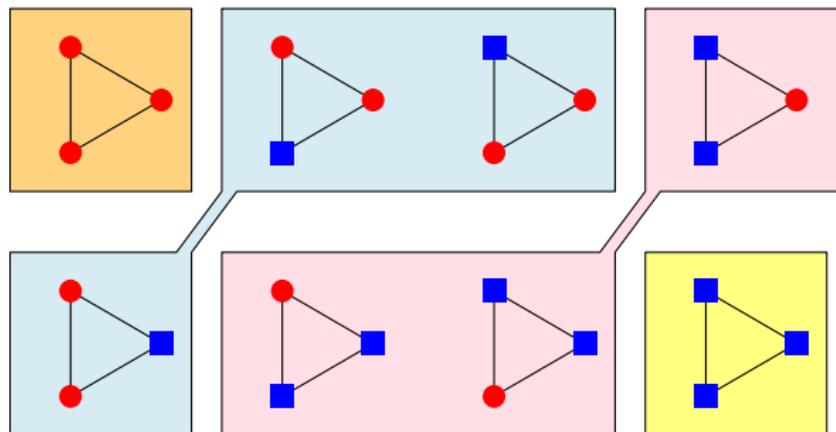
同値関係から分割が得られる

 $X = \{1, 2, 3\}$ ,  $C = \{r, b\}$ ,  $G = C_3$  のとき

## G 同値性から得られる分割 (2)

## 『離散数学』の復習

同値関係から分割が得られる

 $X = \{1, 2, 3\}$ ,  $C = \{r, b\}$ ,  $G = C_3$  のとき分割における1つのかたまり  $\leftrightarrow$  対称性によって同じと見なすものの集まり

## 置換の拡張

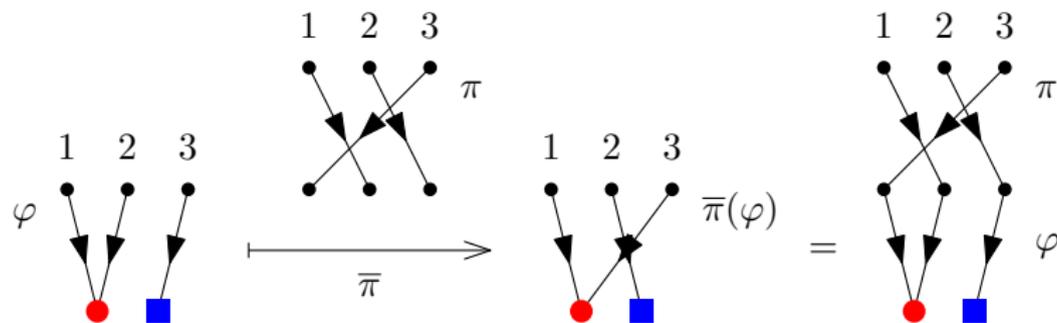
有限集合  $X, C$ , 置換群  $G \subseteq S_X$

## 定義：置換の拡張

任意の置換  $\pi \in G$  と任意の着色  $\varphi \in C^X$  に対して

$$\bar{\pi}(\varphi) = \varphi \circ \pi$$

と定義

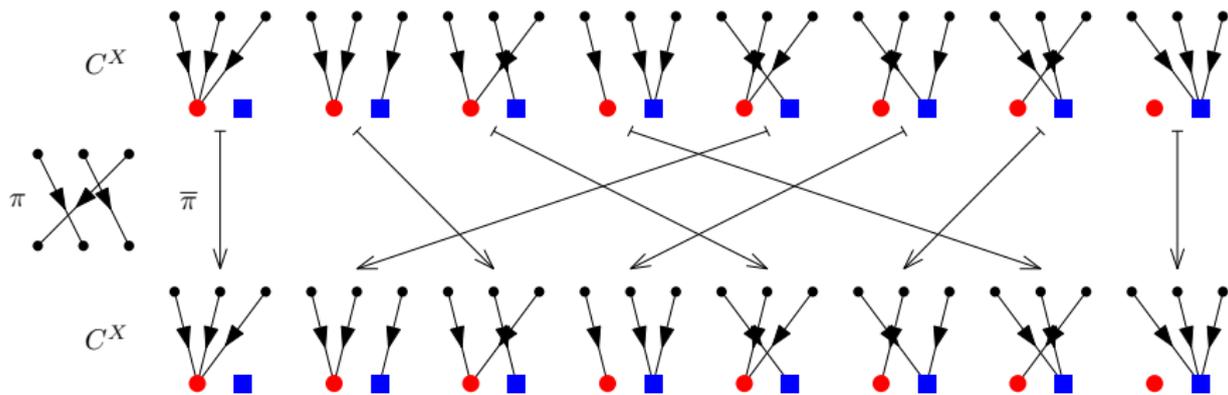


このとき,  $\bar{\pi}: C^X \rightarrow C^X$  となる

## 置換の拡張：着色上の置換

有限集合  $X, C$ , 置換群  $G \subseteq S_X$ 

性質：着色上の置換

前のページで定義した  $\pi: C^X \rightarrow C^X$  は  $C^X$  上の置換定義の復習 :  $\pi(\varphi) = \varphi \circ \pi$

## 置換の拡張：着色上の置換 — 証明

有限集合  $X, C$ , 置換群  $G \subseteq S_X$

性質：着色上の置換

前のページで定義した  $\bar{\pi}: C^X \rightarrow C^X$  は  $C^X$  上の置換

証明： $\bar{\pi}$  に逆写像があることを言えばよい

- ▶ このとき、 $\overline{\pi^{-1}}$  が  $\bar{\pi}$  の逆写像となる (標語的に言えば、 $\bar{\pi}^{-1} = \overline{\pi^{-1}}$ )
- ▶ 実際、任意の  $\varphi \in C^X$  に対して
  - ▶  $(\overline{\pi^{-1} \circ \bar{\pi}})(\varphi) = \overline{\pi^{-1}(\bar{\pi}(\varphi))} = \overline{\pi^{-1}(\varphi \circ \pi)} = (\varphi \circ \pi) \circ \pi^{-1} = \varphi$
  - ▶  $(\overline{\bar{\pi} \circ \pi^{-1}})(\varphi) = \overline{\bar{\pi}(\pi^{-1}(\varphi))} = \overline{\bar{\pi}(\varphi \circ \pi^{-1})} = (\varphi \circ \pi^{-1}) \circ \pi = \varphi$
- ▶ したがって、確かに  $\overline{\pi^{-1}}$  は  $\bar{\pi}$  の逆写像 □

定義の復習： $\bar{\pi}(\varphi) = \varphi \circ \pi$

## 置換の拡張：着色上の置換群

有限集合  $X, C$ , 置換群  $G \subseteq S_X$

性質：着色上の置換群

前のページで定義した  $\pi: C^X \rightarrow C^X$  について

$$\bar{G} = \{\bar{\pi} \mid \pi \in G\}$$

は  $C^X$  上の置換群である

注：  $|\bar{G}| = |G|$

## 置換の拡張：着色上の置換群

有限集合  $X, C$ , 置換群  $G \subseteq S_X$

性質：着色上の置換群

前のページで定義した  $\pi: C^X \rightarrow C^X$  について

$$\bar{G} = \{\bar{\pi} \mid \pi \in G\}$$

は  $C^X$  上の置換群である

証明：任意の  $\bar{\pi}, \bar{\rho} \in \bar{G}$  に対して,  $\bar{\pi}^{-1} \circ \bar{\rho} \in \bar{G}$  であることを示せば十分

- ▶  $(\bar{\pi}^{-1} \circ \bar{\rho})(\varphi) = \bar{\pi}^{-1}(\bar{\rho}(\varphi)) = \bar{\pi}^{-1}(\varphi \circ \rho) = (\varphi \circ \rho) \circ \pi^{-1} = \varphi \circ (\rho \circ \pi^{-1})$
- ▶  $G$  は置換群なので,  $\rho \circ \pi^{-1} \in G$
- ▶  $\therefore \bar{\pi}^{-1} \circ \bar{\rho} \in \bar{G}$  □

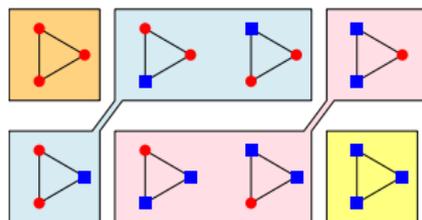
注 :  $|\bar{G}| = |G|$

$G$  同値性と軌道

有限集合  $X, C$ , 置換群  $G \subseteq S_X$ , 着色  $\varphi, \varphi' \in C^X$

性質 :  $G$  同値性と軌道

$$\varphi \sim \varphi' \Leftrightarrow \text{Orb}_{\overline{G}}(\varphi) = \text{Orb}_{\overline{G}}(\varphi')$$



証明 :  $\varphi, \varphi' \in C^X$  とする

$$\begin{aligned} \varphi \sim \varphi' &\Leftrightarrow \text{ある置換 } \pi \in G \text{ が存在して, } \varphi = \varphi' \circ \pi \\ &\Leftrightarrow \text{ある置換 } \pi \in G \text{ が存在して, } \varphi = \overline{\pi}(\varphi') \\ &\Leftrightarrow \varphi \in \text{Orb}_{\overline{G}}(\varphi') \\ &\Leftrightarrow \text{Orb}_{\overline{G}}(\varphi) = \text{Orb}_{\overline{G}}(\varphi') \quad \square \end{aligned}$$

## 着色に関するバーンサイドの補題

有限集合  $X, C$ , 置換群  $G \subseteq S_X$ 

性質：着色に関するバーンサイドの補題

$$|\{\text{Orb}_{\overline{G}}(\varphi) \mid \varphi \in C^X\}| = \frac{1}{|G|} \sum_{\pi \in G} |\text{Fix}(\overline{\pi})|$$

証明：バーンサイドの補題を  $\overline{G}$  に対して適用する □

性質：バーンサイドの補題

(復習)

$$|\{\text{Orb}_G(x) \mid x \in X\}| = \frac{1}{|G|} \sum_{\pi \in G} |\text{Fix}(\pi)|$$

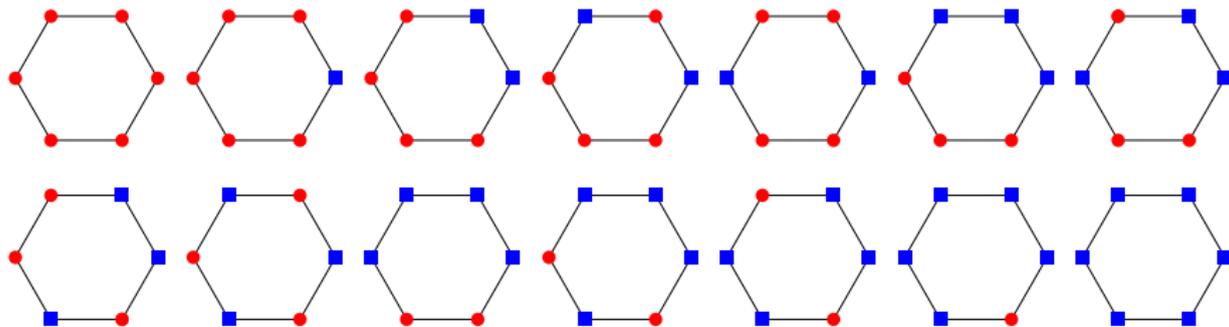
# 目次

- ① 前回の復習
- ② 着色と置換群
- ③ 着色と置換群：例
  - 平面上の回転対称性を考慮した数え上げ
  - 平面上の回転・鏡映対称性を考慮した数え上げ
- ④ 制限された着色と置換群
- ⑤ 制限された着色と置換群：例
  - 円順列
  - 色数を固定した着色
  - 配置を制限した着色
- ⑥ 今日のまとめ

## 例 1：平面上の回転対称性を考慮した数え上げ

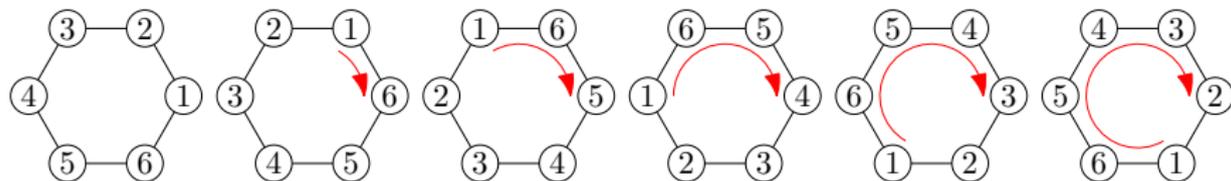
## 例題 1

正六角形の頂点を 2 色で塗り分ける方法は何通りあるか？  
ただし，回転によって一致するものは同じであるとみなす



## 例 1：考える置換群

考える置換群は巡回群  $C_6$



$$\blacktriangleright X = \{1, 2, 3, 4, 5, 6\}, C = \{r, b\}$$

性質：着色に関するバーンサイドの補題

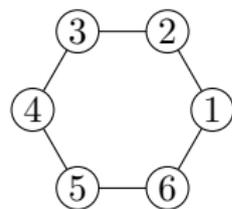
$$|\{\text{Orb}_{\overline{G}}(\varphi) \mid \varphi \in C^X\}| = \frac{1}{|G|} \sum_{\pi \in G} |\text{Fix}(\overline{\pi})|$$

$\blacktriangleright$  各  $\varphi \in C^X$  と各  $\pi \in C_6$  に対して

$$\varphi \in \text{Fix}(\overline{\pi}) \iff \varphi(i) = \varphi(\pi(i)) \quad \forall i \in X$$

## 例 1：0 度回転の固定点

$\pi = 0$  度回転を表す置換 = 恒等置換 とする



$\varphi \in \text{Fix}(\pi)$  とする

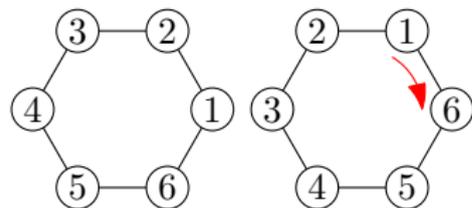
- ▶  $\varphi(i) = \varphi(\pi(i)) = \varphi(i)$
- ▶ これは必ず成り立つ

$\therefore$  任意の着色は  $\text{Fix}(\pi)$  の要素

$$\therefore |\text{Fix}(\pi)| = |C|^{|X|} = 2^6 = 64$$

## 例 1：60 度回転の固定点

$\pi = 60$  度回転を表す置換 とする



$\varphi \in \text{Fix}(\pi)$  とする

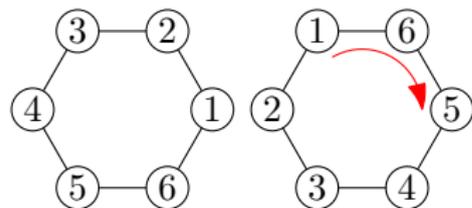
- ▶  $\varphi(1) = \varphi(6)$
- ▶  $\varphi(2) = \varphi(1)$
- ▶  $\varphi(3) = \varphi(2)$
- ▶  $\varphi(4) = \varphi(3)$
- ▶  $\varphi(5) = \varphi(4)$
- ▶  $\varphi(6) = \varphi(5)$

$\therefore$  すべての頂点の色は同じ

$\therefore |\text{Fix}(\pi)| = 2$

## 例 1：120 度回転の固定点

$\pi = 120$  度回転を表す置換 とする



$\varphi \in \text{Fix}(\pi)$  とする

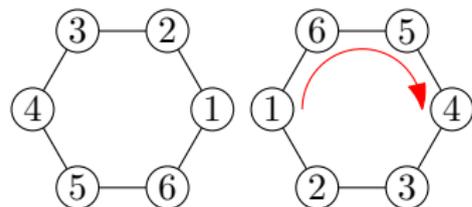
- ▶  $\varphi(1) = \varphi(5)$
- ▶  $\varphi(2) = \varphi(6)$
- ▶  $\varphi(3) = \varphi(1)$
- ▶  $\varphi(4) = \varphi(2)$
- ▶  $\varphi(5) = \varphi(3)$
- ▶  $\varphi(6) = \varphi(4)$

$\therefore \varphi(1) = \varphi(3) = \varphi(5)$  かつ  
 $\varphi(2) = \varphi(4) = \varphi(6)$

$\therefore |\text{Fix}(\pi)| = 2^2 = 4$

## 例 1：180 度回転の固定点

$\pi = 180$  度回転を表す置換 とする



$\varphi \in \text{Fix}(\pi)$  とする

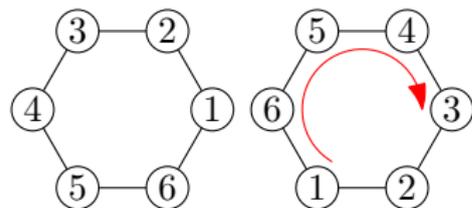
- ▶  $\varphi(1) = \varphi(4)$
- ▶  $\varphi(2) = \varphi(5)$
- ▶  $\varphi(3) = \varphi(6)$
- ▶  $\varphi(4) = \varphi(1)$
- ▶  $\varphi(5) = \varphi(2)$
- ▶  $\varphi(6) = \varphi(3)$

$\therefore \varphi(1) = \varphi(4)$  かつ  
 $\varphi(2) = \varphi(5)$  かつ  
 $\varphi(3) = \varphi(6)$

$$\therefore |\text{Fix}(\pi)| = 2^3 = 8$$

## 例 1：240 度回転の固定点

$\pi = 240$  度回転を表す置換 とする



$\varphi \in \text{Fix}(\pi)$  とする

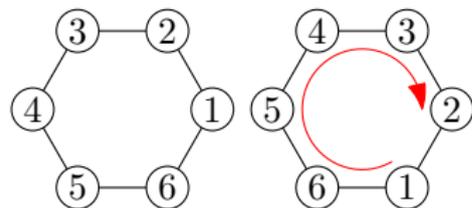
- ▶  $\varphi(1) = \varphi(3)$
- ▶  $\varphi(2) = \varphi(4)$
- ▶  $\varphi(3) = \varphi(5)$
- ▶  $\varphi(4) = \varphi(6)$
- ▶  $\varphi(5) = \varphi(1)$
- ▶  $\varphi(6) = \varphi(2)$

$\therefore \varphi(1) = \varphi(3) = \varphi(5)$  かつ  
 $\varphi(2) = \varphi(4) = \varphi(6)$

$\therefore |\text{Fix}(\pi)| = 2^2 = 4$

## 例 1：300 度回転の固定点

$\pi = 300$  度回転を表す置換 とする



$\varphi \in \text{Fix}(\pi)$  とする

- ▶  $\varphi(1) = \varphi(2)$
- ▶  $\varphi(2) = \varphi(3)$
- ▶  $\varphi(3) = \varphi(4)$
- ▶  $\varphi(4) = \varphi(5)$
- ▶  $\varphi(5) = \varphi(6)$
- ▶  $\varphi(6) = \varphi(1)$

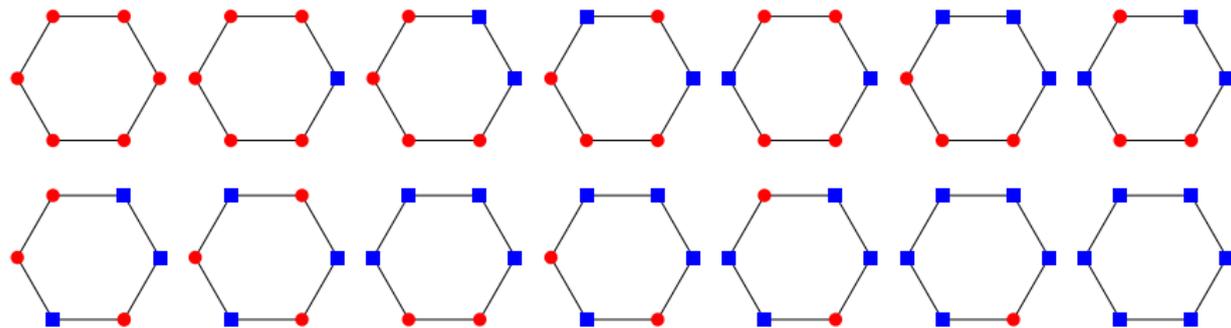
$\therefore$  すべての頂点の色は同じ

$\therefore |\text{Fix}(\pi)| = 2$

## 例 1：結論

バーンサイドの補題より、数えるべきものの総数は

$$\frac{1}{6}(64 + 2 + 4 + 8 + 4 + 2) = 14$$



性質：着色に関するバーンサイドの補題

$$|\{\text{Orb}_{\overline{G}}(\varphi) \mid \varphi \in C^X\}| = \frac{1}{|G|} \sum_{\pi \in G} |\text{Fix}(\overline{\pi})|$$

# 目次

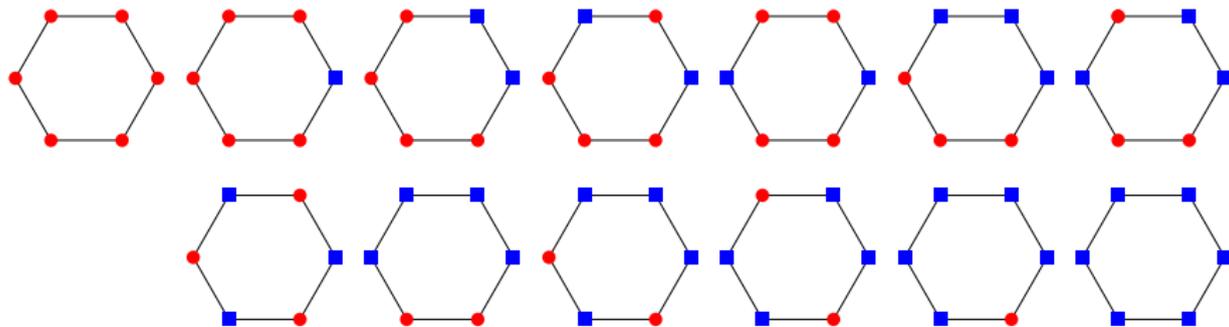
- ① 前回の復習
- ② 着色と置換群
- ③ 着色と置換群：例
  - 平面上の回転対称性を考慮した数え上げ
  - 平面上の回転・鏡映対称性を考慮した数え上げ
- ④ 制限された着色と置換群
- ⑤ 制限された着色と置換群：例
  - 円順列
  - 色数を固定した着色
  - 配置を制限した着色
- ⑥ 今日のまとめ

## 例 2：平面上の回転・鏡映対称性を考慮した数え上げ

## 例題 2

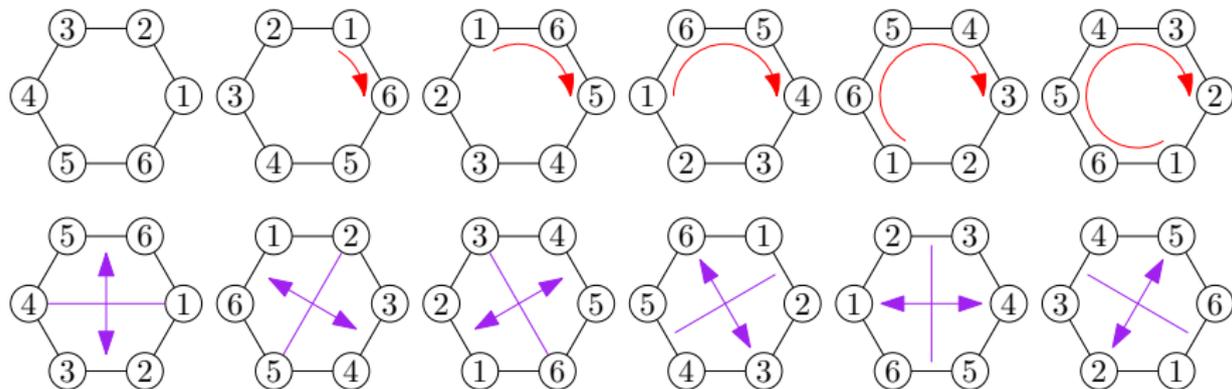
正六角形の頂点を 2 色で塗り分ける方法は何通りあるか？

ただし、回転・鏡映によって一致するものは同じであるとみなす



## 例 2：考える置換群

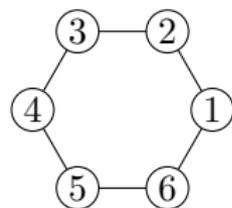
考える置換群は二面体群  $D_{12}$



▶  $X = \{1, 2, 3, 4, 5, 6\}$ ,  $C = \{r, b\}$

## 例 2 : 0 度回転の固定点

$\pi = 0$  度回転を表す置換 = 恒等置換 とする



$\varphi \in \text{Fix}(\pi)$  とする

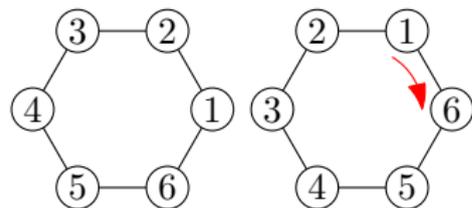
- ▶  $\varphi(i) = \varphi(\pi(i)) = \varphi(i)$
- ▶ これは必ず成り立つ

$\therefore$  任意の着色は  $\text{Fix}(\pi)$  の要素

$$\therefore |\text{Fix}(\pi)| = 2^6 = 64$$

## 例 2：60 度回転の固定点

$\pi = 60$  度回転を表す置換 とする



$\varphi \in \text{Fix}(\pi)$  とする

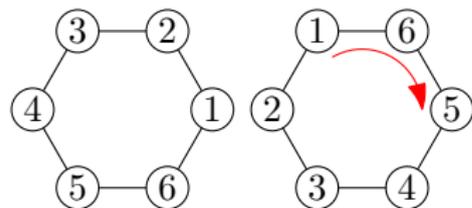
- ▶  $\varphi(1) = \varphi(6)$
- ▶  $\varphi(2) = \varphi(1)$
- ▶  $\varphi(3) = \varphi(2)$
- ▶  $\varphi(4) = \varphi(3)$
- ▶  $\varphi(5) = \varphi(4)$
- ▶  $\varphi(6) = \varphi(5)$

$\therefore$  すべての頂点の色は同じ

$\therefore |\text{Fix}(\pi)| = 2$

## 例 2：120 度回転の固定点

$\pi = 120$  度回転を表す置換 とする



$\varphi \in \text{Fix}(\pi)$  とする

▶  $\varphi(1) = \varphi(5)$

▶  $\varphi(2) = \varphi(6)$

▶  $\varphi(3) = \varphi(1)$

▶  $\varphi(4) = \varphi(2)$

▶  $\varphi(5) = \varphi(3)$

▶  $\varphi(6) = \varphi(4)$

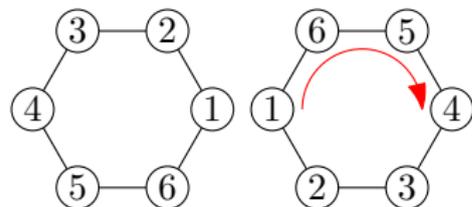
$\therefore \varphi(1) = \varphi(3) = \varphi(5)$  かつ

$\varphi(2) = \varphi(4) = \varphi(6)$

$\therefore |\text{Fix}(\pi)| = 2^2 = 4$

## 例 2：180 度回転の固定点

$\pi = 180$  度回転を表す置換 とする



$\varphi \in \text{Fix}(\pi)$  とする

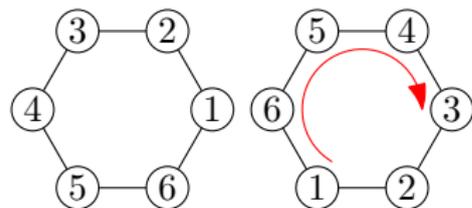
- ▶  $\varphi(1) = \varphi(4)$
- ▶  $\varphi(2) = \varphi(5)$
- ▶  $\varphi(3) = \varphi(6)$
- ▶  $\varphi(4) = \varphi(1)$
- ▶  $\varphi(5) = \varphi(2)$
- ▶  $\varphi(6) = \varphi(3)$

$\therefore \varphi(1) = \varphi(4)$  かつ  
 $\varphi(2) = \varphi(5)$  かつ  
 $\varphi(3) = \varphi(6)$

$$\therefore |\text{Fix}(\pi)| = 2^3 = 8$$

## 例 2：240 度回転の固定点

$\pi = 240$  度回転を表す置換 とする



$\varphi \in \text{Fix}(\pi)$  とする

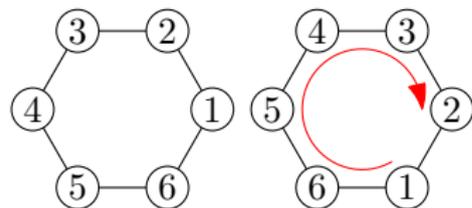
- ▶  $\varphi(1) = \varphi(3)$
- ▶  $\varphi(2) = \varphi(4)$
- ▶  $\varphi(3) = \varphi(5)$
- ▶  $\varphi(4) = \varphi(6)$
- ▶  $\varphi(5) = \varphi(1)$
- ▶  $\varphi(6) = \varphi(2)$

$\therefore \varphi(1) = \varphi(3) = \varphi(5)$  かつ  
 $\varphi(2) = \varphi(4) = \varphi(6)$

$\therefore |\text{Fix}(\pi)| = 2^2 = 4$

## 例 2：300 度回転の固定点

$\pi = 300$  度回転を表す置換 とする



$\varphi \in \text{Fix}(\pi)$  とする

- ▶  $\varphi(1) = \varphi(2)$
- ▶  $\varphi(2) = \varphi(3)$
- ▶  $\varphi(3) = \varphi(4)$
- ▶  $\varphi(4) = \varphi(5)$
- ▶  $\varphi(5) = \varphi(6)$
- ▶  $\varphi(6) = \varphi(1)$

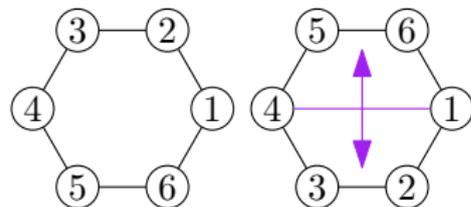
$\therefore$  すべての頂点の色は同じ

$\therefore |\text{Fix}(\pi)| = 2$

## 例 2：2 頂点を通る直線に関する鏡映の固定点

$\pi = 2$  頂点を通る直線に関する鏡映を表す置換 とする  
 (そのような直線は 3 つ存在)

$\varphi \in \text{Fix}(\pi)$  とする



- ▶  $\varphi(1) = \varphi(1)$
- ▶  $\varphi(2) = \varphi(6)$
- ▶  $\varphi(3) = \varphi(5)$
- ▶  $\varphi(4) = \varphi(4)$
- ▶  $\varphi(5) = \varphi(3)$
- ▶  $\varphi(6) = \varphi(2)$

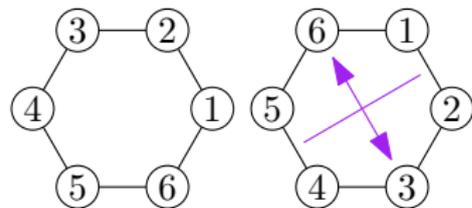
$$\therefore |\text{Fix}(\pi)| = 2^4 = 16$$

## 例 2 : 2 辺の中点を通る直線に関する鏡映の固定点

$\pi = 2$  辺の中点を通る直線に関する鏡映を表す置換 とする  
(そのような直線は 3 つ存在)

$\varphi \in \text{Fix}(\pi)$  とする

- ▶  $\varphi(1) = \varphi(2)$
- ▶  $\varphi(2) = \varphi(1)$
- ▶  $\varphi(3) = \varphi(6)$
- ▶  $\varphi(4) = \varphi(5)$
- ▶  $\varphi(5) = \varphi(4)$
- ▶  $\varphi(6) = \varphi(3)$

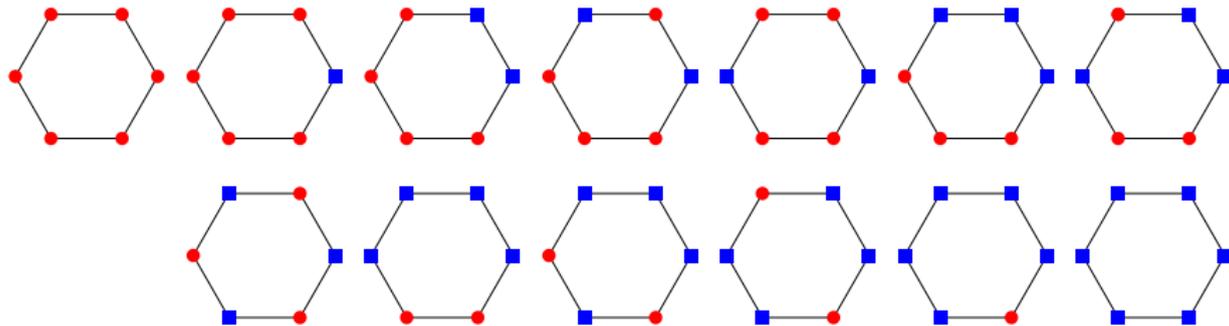


$$\therefore |\text{Fix}(\pi)| = 2^3 = 8$$

## 例 1：結論

バーンサイドの補題より，数えるべきものの総数は

$$\frac{1}{12}(64 + 2 + 4 + 8 + 4 + 2 + 16 \cdot 3 + 8 \cdot 3) = 13$$



## 目次

- ① 前回の復習
- ② 着色と置換群
- ③ 着色と置換群：例
  - 平面上の回転対称性を考慮した数え上げ
  - 平面上の回転・鏡映対称性を考慮した数え上げ
- ④ 制限された着色と置換群
- ⑤ 制限された着色と置換群：例
  - 円順列
  - 色数を固定した着色
  - 配置を制限した着色
- ⑥ 今日のまとめ

## 制限された着色

有限集合  $X, C$ , 置換群  $G \subseteq S_X$ , 着色の集合の部分集合  $\Phi \subseteq C^X$

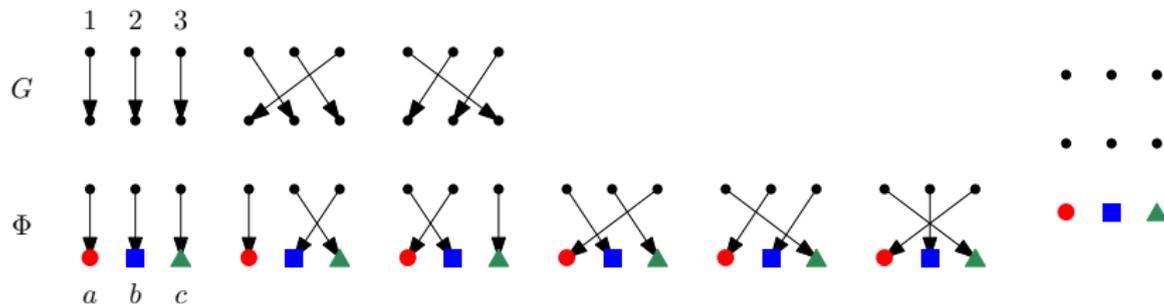
定義 ;  $G$  不変性

$\Phi$  が  $G$  不変 であるとは, 次を満たすこと

$$\varphi \in \Phi, \pi \in G \Rightarrow \varphi \circ \pi \in \Phi$$

例 :  $X = \{1, 2, 3\}$ ,  $C = \{a, b, c\}$ ,  $G = C_3$  で,  
 $\Phi = X$  から  $C$  への全単射全体 とする

- ▶ このとき, 任意の全単射  $\varphi: X \rightarrow C$  と  $\pi \in G$  に対して,  
 $\varphi \circ \pi: X \rightarrow C$  も全単射であるから,  $\Phi$  は  $G$  不変である



着色の  $G$  同値性 : 同値関係

有限集合  $X, C$ , 置換群  $G \subseteq S_X$ ,  $G$  不変な着色の集合  $\Phi \subseteq C^X$

記法 : 着色の  $G$  同値性

2つの着色  $\varphi, \varphi' \in \Phi$  が  **$G$  同値** であることを, 次で定義する

$$\varphi \sim \varphi' \Leftrightarrow \text{ある置換 } \pi \in G \text{ が存在して, } \varphi = \varphi' \circ \pi$$

性質 :  $G$  同値性は同値関係

$G$  同値性は  $\Phi$  上の同値関係である, つまり, 次を満たす

- 1 任意の  $\varphi \in \Phi$  に対して,  $\varphi \sim \varphi$  (反射性)
- 2 任意の  $\varphi, \varphi' \in \Phi$  に対して,  $\varphi \sim \varphi'$  ならば  $\varphi' \sim \varphi$  (対称性)
- 3 任意の  $\varphi, \varphi', \varphi'' \in \Phi$  に対して,  $\varphi \sim \varphi'$  かつ  $\varphi' \sim \varphi''$  ならば  $\varphi \sim \varphi''$  (推移性)

証明 : 演習問題 ( $\Phi = C^X$  の場合の証明と同様)

## 置換の拡張

有限集合  $X, C$ , 置換群  $G \subseteq S_X$ ,  $G$  不変な着色の集合  $\Phi \subseteq C^X$

## 定義：置換の拡張

任意の置換  $\pi \in G$  と任意の着色  $\varphi \in \Phi$  に対して

$$\bar{\pi}(\varphi) = \varphi \circ \pi$$

## と定義

このとき,  $\bar{\pi}: \Phi \rightarrow \Phi$  となる ( $\Phi$  の  $G$  不変性より)

## 置換の拡張：制限された着色上の置換群

有限集合  $X, C$ , 置換群  $G \subseteq S_X$ ,  $G$  不変な着色の集合  $\Phi \subseteq C^X$

性質：制限された着色上の置換

前のページで定義した  $\pi: \Phi \rightarrow \Phi$  は  $\Phi$  上の置換

性質：制限された着色上の置換群

前のページで定義した  $\pi: \Phi \rightarrow \Phi$  について  
 $\overline{G} = \{\pi \mid \pi \in G\}$  は  $\Phi$  上の置換群である

性質： $G$  同値性と軌道

$\varphi, \varphi' \in \Phi$  のとき

$$\varphi \sim \varphi' \Leftrightarrow \text{Orb}_{\overline{G}}(\varphi) = \text{Orb}_{\overline{G}}(\varphi')$$

証明： $\Phi = C^X$  のときの証明と同様 (実際に確認せよ) □

## 制限された着色に関するバーンサイドの補題

有限集合  $X, C$ , 置換群  $G \subseteq S_X$ ,  $G$  不変な着色の集合  $\Phi \subseteq C^X$

性質：制限された着色に関するバーンサイドの補題

$$|\{\text{Orb}_{\overline{G}}(\varphi) \mid \varphi \in \Phi\}| = \frac{1}{|G|} \sum_{\pi \in G} |\text{Fix}(\overline{\pi})|$$

証明：バーンサイドの補題を  $\overline{G}$  に対して適用する

性質：バーンサイドの補題

(復習)

$$|\{\text{Orb}_G(x) \mid x \in X\}| = \frac{1}{|G|} \sum_{\pi \in G} |\text{Fix}(\pi)|$$

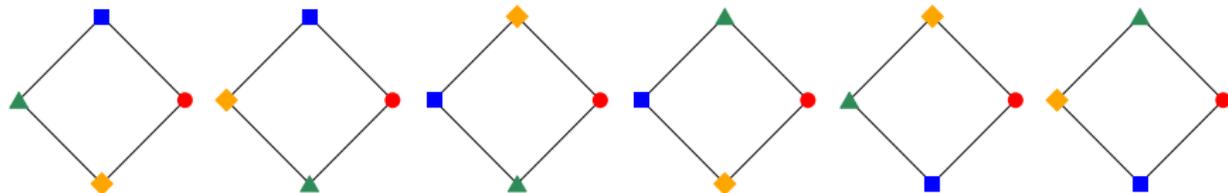
# 目次

- ① 前回の復習
- ② 着色と置換群
- ③ 着色と置換群：例
  - 平面上の回転対称性を考慮した数え上げ
  - 平面上の回転・鏡映対称性を考慮した数え上げ
- ④ 制限された着色と置換群
- ⑤ 制限された着色と置換群：例
  - 円順列
  - 色数を固定した着色
  - 配置を制限した着色
- ⑥ 今日のまとめ

## 例 3 : 円順列

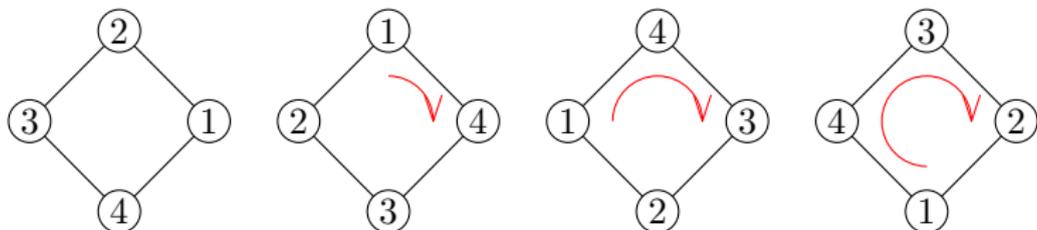
## 例題 3

正方形の頂点を 4 色で塗り分ける方法は何通りあるか？  
ただし, 4 色すべてを用いることとして,  
回転によって一致するものは同じであるとみなす



## 例 3：考える置換群

考える置換群は巡回群  $C_4$



$$\blacktriangleright X = \{1, 2, 3, 4\}, C = \{r, b, g, y\}$$

性質：制限された着色に関するバーンサイドの補題

$$|\{\text{Orb}_{\bar{G}}(\varphi) \mid \varphi \in \Phi\}| = \frac{1}{|G|} \sum_{\pi \in G} |\text{Fix}(\bar{\pi})|$$

$\Phi = X$  から  $C$  への全単射全体

例 3 :  $G$  不変性の確認

**設定** :  $G = C_4$ ,  $\Phi = X$  から  $C$  への全単射全体

## まず行うこと

$\Phi$  が  $G$  不変であることの確認

- ▶ 任意の  $\varphi \in \Phi, \pi \in C_4$  を考える
- ▶ **目標** :  $\varphi \circ \pi \in \Phi$
- ▶  $\pi$  と  $\varphi$  は全単射なので,  $\varphi \circ \pi$  も全単射
- ▶  $\therefore \varphi \circ \pi \in \Phi$  □

これで, 制限された着色に対するバーンサイドの補題が利用できる

性質 : 全単射の合成も全単射

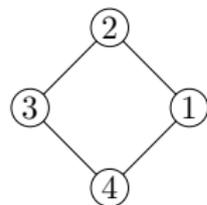
(離散数学の復習)

集合  $A, B, C$ , 写像  $f: A \rightarrow B, g: B \rightarrow C$  に対して

$$f \text{ と } g \text{ が全単射} \quad \Rightarrow \quad g \circ f \text{ も全単射}$$

## 例 3 : 0 度回転の固定点

$\pi = 0$  度回転を表す置換 = 恒等置換 とする



$\varphi \in \text{Fix}(\pi)$  とする

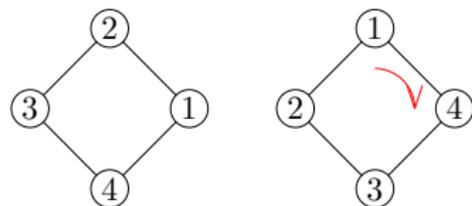
- ▶  $\varphi(i) = \varphi(\pi(i)) = \varphi(i)$
- ▶ これは必ず成り立つ

$\therefore$  任意の着色  $\in \Phi$  は  $\text{Fix}(\pi)$  の要素

$$\therefore |\text{Fix}(\pi)| = |\Phi| = 4! = 24$$

## 例 3 : 90 度回転の固定点

$\pi = 90$  度回転を表す置換



$\varphi \in \text{Fix}(\pi)$  とする

▶  $\varphi(1) = \varphi(4)$

▶  $\varphi(2) = \varphi(1)$

▶  $\varphi(3) = \varphi(2)$

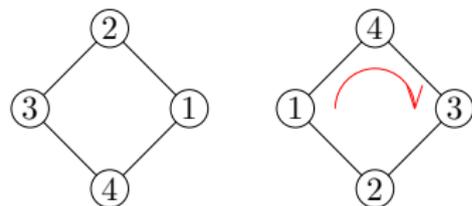
▶  $\varphi(4) = \varphi(3)$

$\therefore \varphi$  は全単射ではない

$\therefore |\text{Fix}(\pi)| = 0$

## 例 3 : 180 度回転の固定点

$\pi = 180$  度回転を表す置換



$\varphi \in \text{Fix}(\pi)$  とする

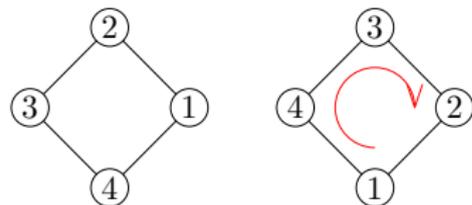
- ▶  $\varphi(1) = \varphi(3)$
- ▶  $\varphi(2) = \varphi(4)$
- ▶  $\varphi(3) = \varphi(1)$
- ▶  $\varphi(4) = \varphi(2)$

$\therefore \varphi$  は全単射ではない

$\therefore |\text{Fix}(\pi)| = 0$

## 例 3：270 度回転の固定点

$\pi = 270$  度回転を表す置換



$\varphi \in \text{Fix}(\pi)$  とする

▶  $\varphi(1) = \varphi(2)$

▶  $\varphi(2) = \varphi(3)$

▶  $\varphi(3) = \varphi(4)$

▶  $\varphi(4) = \varphi(1)$

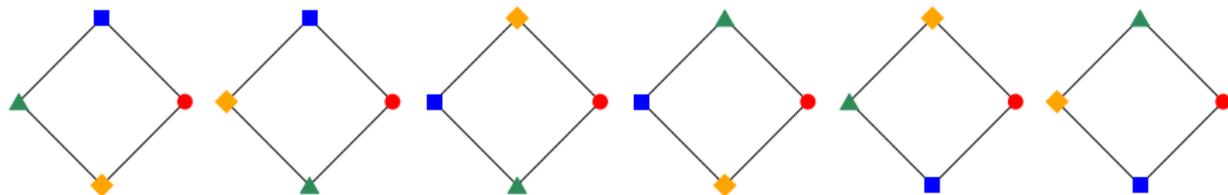
$\therefore \varphi$  は全単射ではない

$\therefore |\text{Fix}(\pi)| = 0$

## 例 3 : 結論

バーンサイドの補題より、数えるべきものの総数は

$$\frac{1}{4}(24 + 0 + 0 + 0) = 6$$



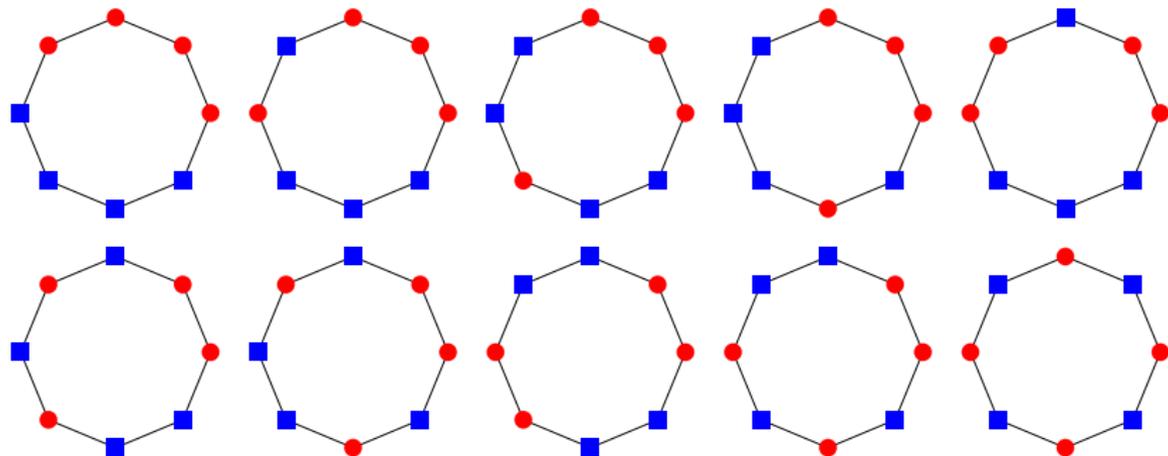
# 目次

- ① 前回の復習
- ② 着色と置換群
- ③ 着色と置換群：例
  - 平面上の回転対称性を考慮した数え上げ
  - 平面上の回転・鏡映対称性を考慮した数え上げ
- ④ 制限された着色と置換群
- ⑤ 制限された着色と置換群：例
  - 円順列
  - 色数を固定した着色
  - 配置を制限した着色
- ⑥ 今日のまとめ

## 例 4：色数を固定した着色

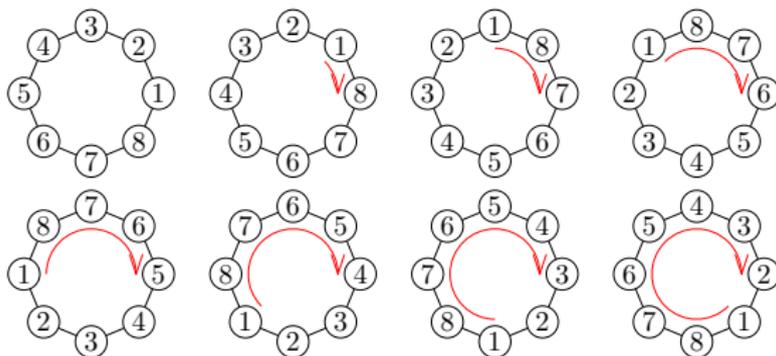
## 例題 4

正八角形の頂点を赤と青の 2 色で塗り分ける方法は何通りあるか？、  
ただし、赤を 4 頂点に、青を 4 頂点に塗ることとし、  
回転によって一致するものは同じであるとみなす



## 例 4：考える置換群

考える置換群は巡回群  $C_8$



▶  $X = \{1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8\}$ ,  $C = \{r, b\}$   
 $\Phi = \{\varphi \in C^X \mid |\varphi^{-1}(\{r\})| = |\varphi^{-1}(\{b\})| = 4\}$

定義：逆像

(離散数学の復習)

写像  $f: A \rightarrow B$  と部分集合  $Y \subseteq B$  に対して

$$f^{-1}(Y) = \{x \in A \mid f(x) \in Y\}$$

例 4 :  $G$  不変性の確認

**設定** :  $G = C_8$ ,  $\Phi = \{\varphi \in C^X \mid |\varphi^{-1}(\{r\})| = |\varphi^{-1}(\{b\})| = 4\}$

## まず行うこと

 $\Phi$  が  $G$  不変であることの確認

- ▶ 任意の  $\varphi \in \Phi, \pi \in C_8$  を考える
- ▶ **目標** :  $\varphi \circ \pi \in \Phi$
- ▶  $\pi^{-1}$  は  $\varphi^{-1}(\{r\})$  から  $(\varphi \circ \pi)^{-1}(\{r\})$  への全単射 (なぜ?)
- ▶ したがって,  $|(\varphi \circ \pi)^{-1}(\{r\})| = |\varphi^{-1}(\{r\})| = 4$
- ▶  $\therefore \varphi \circ \pi \in \Phi$  □

これで, 制限された着色に対するバーンサイドの補題が利用できる

例 4 :  $G$  不変性の確認

**設定** :  $G = C_8$ ,  $\Phi = \{\varphi \in C^X \mid |\varphi^{-1}(\{r\})| = |\varphi^{-1}(\{b\})| = 4\}$

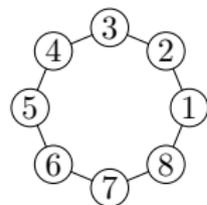
## まず行うこと

 $\Phi$  が  $G$  不変であることの確認

- ▶ 任意の  $\varphi \in \Phi, \pi \in C_8$  を考える
- ▶ **目標** :  $\varphi \circ \pi \in \Phi$
- ▶  $\pi^{-1}$  は  $\varphi^{-1}(\{r\})$  から  $(\varphi \circ \pi)^{-1}(\{r\})$  への全単射 (なぜ?)

## 例 4 : 0 度回転の固定点

$\pi = 0$  度回転を表す置換 = 恒等置換 とする



$\varphi \in \text{Fix}(\bar{\pi})$  とする

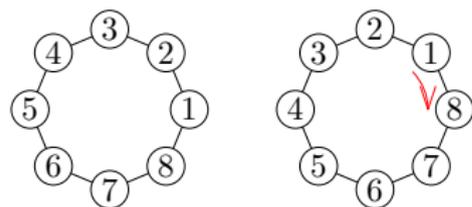
▶  $\varphi(i) = \varphi(\pi(i)) = \varphi(i)$

▶ これは必ず成り立つ

$\therefore$  任意の着色  $\in \Phi$  は  $\text{Fix}(\bar{\pi})$  の要素

$$\therefore |\text{Fix}(\bar{\pi})| = \binom{8}{4} = 70$$

## 例 4：45 度回転の固定点

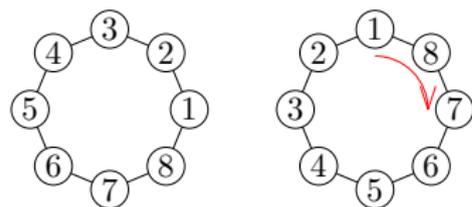
 $\pi = 45$  度回転を表す置換 $\varphi \in \text{Fix}(\bar{\pi})$  とする

- ▶  $\varphi(1) = \varphi(8)$
- ▶  $\varphi(2) = \varphi(1)$
- ▶  $\varphi(3) = \varphi(2)$
- ▶  $\varphi(4) = \varphi(3)$
- ▶  $\varphi(5) = \varphi(4)$
- ▶  $\varphi(6) = \varphi(5)$
- ▶  $\varphi(7) = \varphi(6)$
- ▶  $\varphi(8) = \varphi(7)$

$\therefore$  すべての頂点の色は同じ  
 (特に,  $\therefore |\varphi^{-1}(\{r\})| \neq 4$ )

 $\therefore |\text{Fix}(\bar{\pi})| = 0$

## 例 4 : 90 度回転の固定点

 $\pi = 90$  度回転を表す置換 $\varphi \in \text{Fix}(\bar{\pi})$  とする

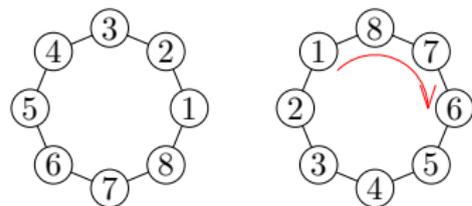
- ▶  $\varphi(1) = \varphi(7)$
- ▶  $\varphi(2) = \varphi(8)$
- ▶  $\varphi(3) = \varphi(1)$
- ▶  $\varphi(4) = \varphi(2)$
- ▶  $\varphi(5) = \varphi(3)$
- ▶  $\varphi(6) = \varphi(4)$
- ▶  $\varphi(7) = \varphi(5)$
- ▶  $\varphi(8) = \varphi(6)$

$\therefore \varphi(1) = \varphi(3) = \varphi(5) = \varphi(7)$  かつ  
 $\varphi(2) = \varphi(4) = \varphi(6) = \varphi(8)$

 $\therefore |\text{Fix}(\bar{\pi})| = 2$

## 例 4 : 135 度回転の固定点

$\pi = 135$  度回転を表す置換



$\varphi \in \text{Fix}(\pi)$  とする

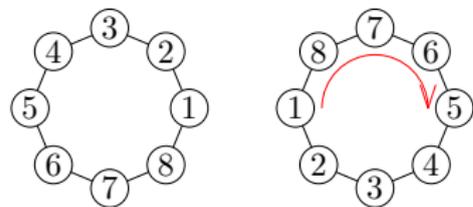
- ▶  $\varphi(1) = \varphi(6)$
- ▶  $\varphi(2) = \varphi(7)$
- ▶  $\varphi(3) = \varphi(8)$
- ▶  $\varphi(4) = \varphi(1)$
- ▶  $\varphi(5) = \varphi(2)$
- ▶  $\varphi(6) = \varphi(3)$
- ▶  $\varphi(7) = \varphi(4)$
- ▶  $\varphi(8) = \varphi(5)$

$\therefore$  すべての頂点の色は同じ

$\therefore |\text{Fix}(\pi)| = 0$

## 例 4 : 180 度回転の固定点

$\pi = 180$  度回転を表す置換



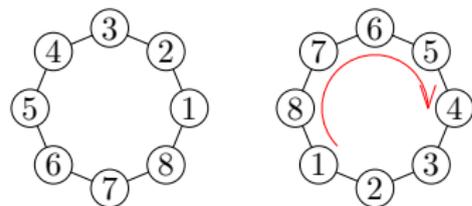
$\varphi \in \text{Fix}(\pi)$  とする

- ▶  $\varphi(1) = \varphi(5)$
- ▶  $\varphi(2) = \varphi(6)$
- ▶  $\varphi(3) = \varphi(7)$
- ▶  $\varphi(4) = \varphi(8)$
- ▶  $\varphi(5) = \varphi(1)$
- ▶  $\varphi(6) = \varphi(2)$
- ▶  $\varphi(7) = \varphi(3)$
- ▶  $\varphi(8) = \varphi(4)$

$$\therefore |\text{Fix}(\pi)| = \binom{4}{2} = 6$$

## 例 4：225 度回転の固定点

$\pi = 225$  度回転を表す置換



$\varphi \in \text{Fix}(\pi)$  とする

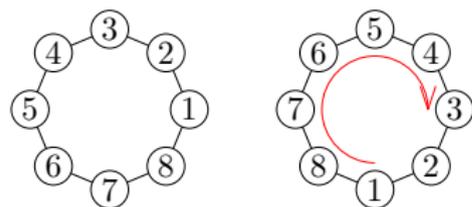
- ▶  $\varphi(1) = \varphi(4)$
- ▶  $\varphi(2) = \varphi(5)$
- ▶  $\varphi(3) = \varphi(6)$
- ▶  $\varphi(4) = \varphi(7)$
- ▶  $\varphi(5) = \varphi(8)$
- ▶  $\varphi(6) = \varphi(1)$
- ▶  $\varphi(7) = \varphi(2)$
- ▶  $\varphi(8) = \varphi(3)$

$\therefore$  すべての頂点の色は同じ

$\therefore |\text{Fix}(\pi)| = 0$

## 例 4 : 270 度回転の固定点

$\pi = 270$  度回転を表す置換



$\varphi \in \text{Fix}(\bar{\pi})$  とする

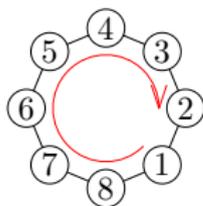
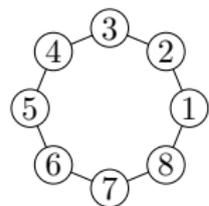
- ▶  $\varphi(1) = \varphi(3)$
- ▶  $\varphi(2) = \varphi(4)$
- ▶  $\varphi(3) = \varphi(5)$
- ▶  $\varphi(4) = \varphi(6)$
- ▶  $\varphi(5) = \varphi(7)$
- ▶  $\varphi(6) = \varphi(8)$
- ▶  $\varphi(7) = \varphi(1)$
- ▶  $\varphi(8) = \varphi(2)$

$\therefore \varphi(1) = \varphi(3) = \varphi(5) = \varphi(7)$  かつ  
 $\varphi(2) = \varphi(4) = \varphi(6) = \varphi(8)$

$\therefore |\text{Fix}(\bar{\pi})| = 2$

## 例 4 : 315 度回転の固定点

$\pi = 315$  度回転を表す置換



$\varphi \in \text{Fix}(\pi)$  とする

- ▶  $\varphi(1) = \varphi(2)$
- ▶  $\varphi(2) = \varphi(3)$
- ▶  $\varphi(3) = \varphi(4)$
- ▶  $\varphi(4) = \varphi(5)$
- ▶  $\varphi(5) = \varphi(6)$
- ▶  $\varphi(6) = \varphi(7)$
- ▶  $\varphi(7) = \varphi(8)$
- ▶  $\varphi(8) = \varphi(1)$

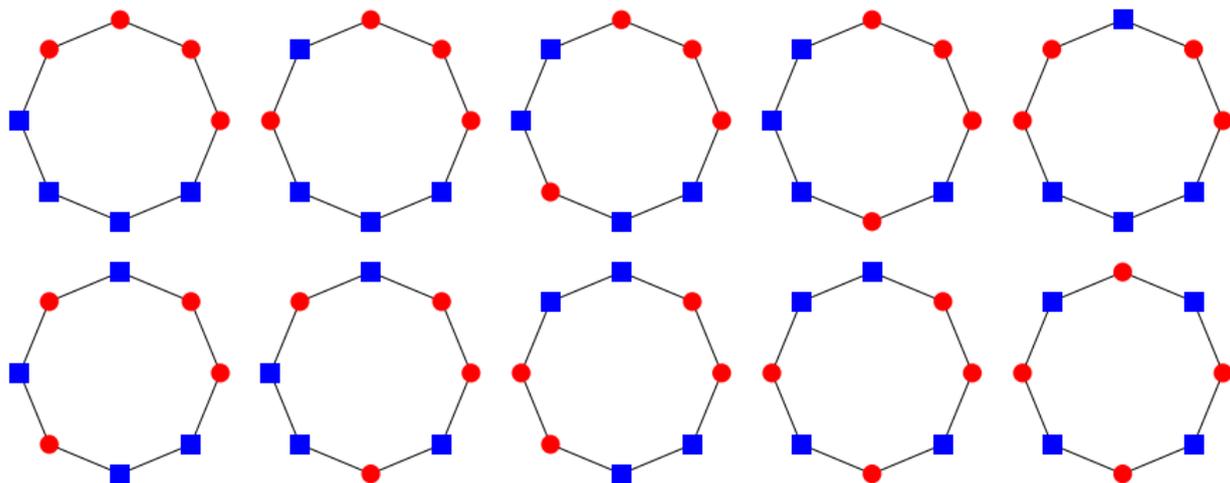
$\therefore$  すべての頂点の色は同じ

$\therefore |\text{Fix}(\pi)| = 0$

## 例 4：結論

バーンサイドの補題より、数えるべきものの総数は

$$\frac{1}{8}(70 + 0 + 2 + 0 + 6 + 0 + 2 + 0) = 10$$



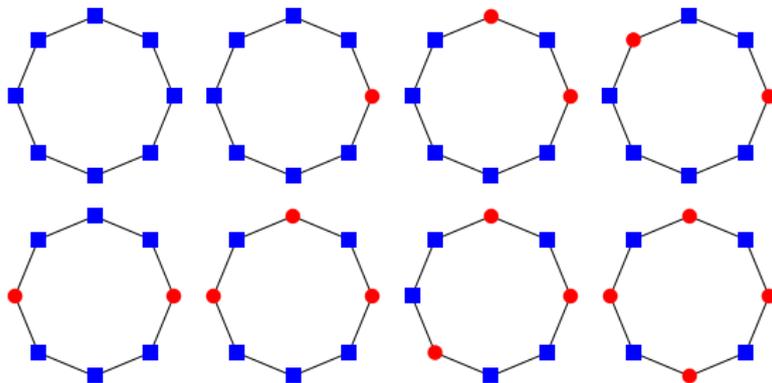
# 目次

- ① 前回の復習
- ② 着色と置換群
- ③ 着色と置換群：例
  - 平面上の回転対称性を考慮した数え上げ
  - 平面上の回転・鏡映対称性を考慮した数え上げ
- ④ 制限された着色と置換群
- ⑤ 制限された着色と置換群：例
  - 円順列
  - 色数を固定した着色
  - 配置を制限した着色
- ⑥ 今日のまとめ

## 例 5：配置を制限した着色

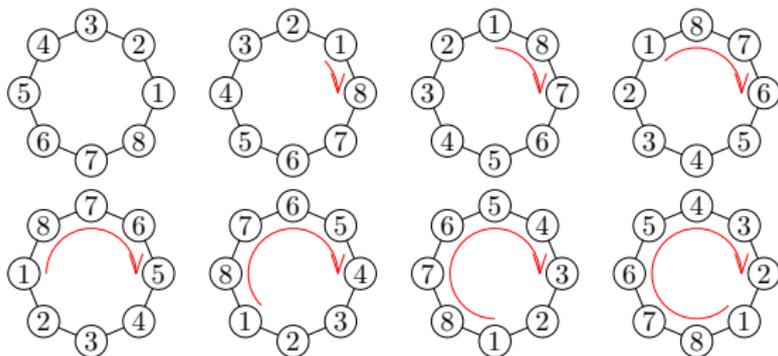
## 例題 5

正八角形の頂点を赤と青の2色で塗り分ける方法は何通りあるか？、  
 ただし、赤で塗られた2頂点が隣接することは許さず、  
 回転によって一致するものは同じであるとみなす



## 例 5：考える置換群

考える置換群は巡回群  $C_8$



▶  $X = \{1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8\}$ ,  $C = \{r, b\}$

$\Phi = \{\varphi \in C^X \mid \varphi(i) = \varphi(j) = r \rightarrow |i - j| \neq 1\}$

例 5 :  $G$  不変性の確認

**設定** :  $G = C_8$ ,  $\Phi = \{\varphi \in C^X \mid \varphi(i) = \varphi(j) = r \rightarrow |i - j| \neq 1\}$

## まず行うこと

 $\Phi$  が  $G$  不変であることの確認

- ▶ 任意の  $\varphi \in \Phi, \pi \in C_8$  を考える
- ▶ **目標** :  $\varphi \circ \pi \in \Phi$
- ▶  $(\varphi \circ \pi)(i) = (\varphi \circ \pi)(j) = r$  であるとする
- ▶
- ▶
- ▶
- ▶
- ▶  $\therefore |i - j| \neq 1$



例 5 :  $G$  不変性の確認

**設定** :  $G = C_8$ ,  $\Phi = \{\varphi \in C^X \mid \varphi(i) = \varphi(j) = r \rightarrow |i - j| \neq 1\}$

## まず行うこと

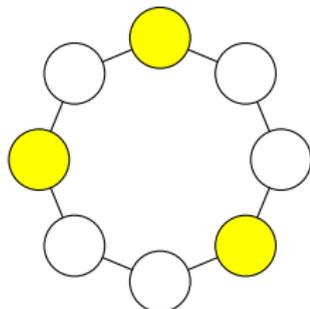
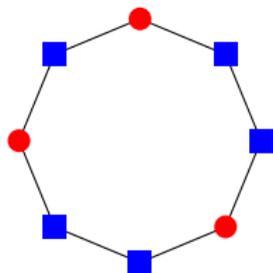
 $\Phi$  が  $G$  不変であることの確認

- ▶ 任意の  $\varphi \in \Phi, \pi \in C_8$  を考える
- ▶ **目標** :  $\varphi \circ \pi \in \Phi$
- ▶  $(\varphi \circ \pi)(i) = (\varphi \circ \pi)(j) = r$  であるとする
- ▶ このとき,  $\varphi(\pi(i)) = \varphi(\pi(j)) = r$
- ▶  $\varphi \in \Phi$  なので,  $|\pi(i) - \pi(j)| \neq 1$
- ▶  $\pi \in C_8$  であるので, ある  $a \in \{1, 2, \dots, 8\}$  が存在して  $\pi(k) = (k + a - 1) \bmod 8$  と書ける
- ▶ このとき,  $|\pi(i) - \pi(j)| = |i - j|$
- ▶  $\therefore |i - j| \neq 1$



## 例 5：独立集合との関係

赤で塗られた頂点の集合  $\leftrightarrow$  頂点数 8 の閉路の独立集合



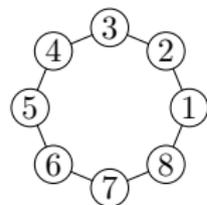
## 性質 (演習問題 2.1)

頂点数  $n$  の閉路の独立集合の総数を  $a'_n$ ,  
 頂点数  $n$  の道の独立集合の総数を  $a_n$  とすると  
 $n \geq 4$  のとき,  $a'_n = a_{n-1} + a_{n-3}$

第 2 回の復習：  $a_1 = 2, a_2 = 3$  で,  $n \geq 3$  のとき,  $a_n = a_{n-1} + a_{n-2}$

## 例 5 : 0 度回転の固定点

$\pi = 0$  度回転を表す置換 = 恒等置換 とする



$\varphi \in \text{Fix}(\bar{\pi})$  とする

▶  $\varphi(i) = \varphi(\pi(i)) = \varphi(i)$

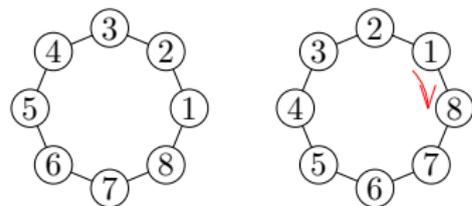
▶ これは必ず成り立つ

∴ 任意の着色  $\in \Phi$  は  $\text{Fix}(\bar{\pi})$  の要素

$$\therefore |\text{Fix}(\bar{\pi})| = a'_8 = a_7 + a_5 = 34 + 13 = 47$$

## 例 5：45 度回転の固定点

$\pi = 45$  度回転を表す置換



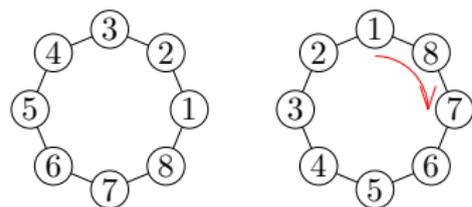
$\varphi \in \text{Fix}(\pi)$  とする

- ▶  $\varphi(1) = \varphi(8)$
- ▶  $\varphi(2) = \varphi(1)$
- ▶  $\varphi(3) = \varphi(2)$
- ▶  $\varphi(4) = \varphi(3)$
- ▶  $\varphi(5) = \varphi(4)$
- ▶  $\varphi(6) = \varphi(5)$
- ▶  $\varphi(7) = \varphi(6)$
- ▶  $\varphi(8) = \varphi(7)$

$\therefore$  すべての頂点の色は同じ

$\therefore |\text{Fix}(\pi)| = 1$

## 例 5 : 90 度回転の固定点

 $\pi = 90$  度回転を表す置換 $\varphi \in \text{Fix}(\bar{\pi})$  とする

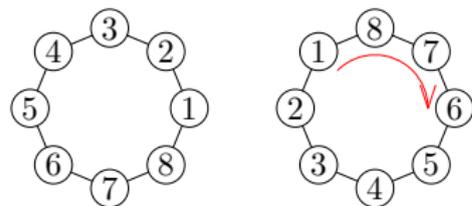
- ▶  $\varphi(1) = \varphi(7)$
- ▶  $\varphi(2) = \varphi(8)$
- ▶  $\varphi(3) = \varphi(1)$
- ▶  $\varphi(4) = \varphi(2)$
- ▶  $\varphi(5) = \varphi(3)$
- ▶  $\varphi(6) = \varphi(4)$
- ▶  $\varphi(7) = \varphi(5)$
- ▶  $\varphi(8) = \varphi(6)$

$\therefore \varphi(1) = \varphi(3) = \varphi(5) = \varphi(7)$  かつ  
 $\varphi(2) = \varphi(4) = \varphi(6) = \varphi(8)$

 $\therefore |\text{Fix}(\bar{\pi})| = 3$

## 例 5 : 135 度回転の固定点

$\pi = 135$  度回転を表す置換



$\varphi \in \text{Fix}(\pi)$  とする

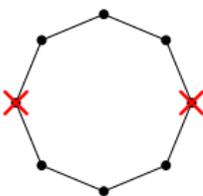
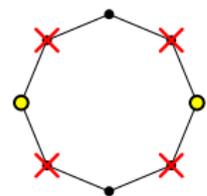
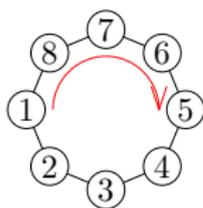
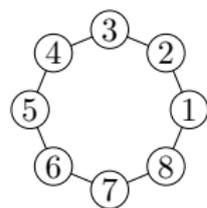
- ▶  $\varphi(1) = \varphi(6)$
- ▶  $\varphi(2) = \varphi(7)$
- ▶  $\varphi(3) = \varphi(8)$
- ▶  $\varphi(4) = \varphi(1)$
- ▶  $\varphi(5) = \varphi(2)$
- ▶  $\varphi(6) = \varphi(3)$
- ▶  $\varphi(7) = \varphi(4)$
- ▶  $\varphi(8) = \varphi(5)$

$\therefore$  すべての頂点の色は同じ

$\therefore |\text{Fix}(\pi)| = 1$

## 例 5 : 180 度回転の固定点

$\pi = 180$  度回転を表す置換



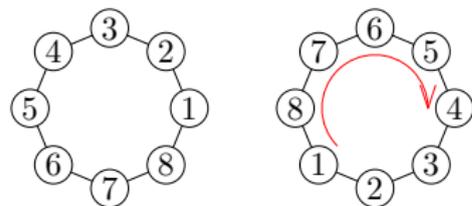
$\varphi \in \text{Fix}(\bar{\pi})$  とする

- ▶  $\varphi(1) = \varphi(5)$
- ▶  $\varphi(2) = \varphi(6)$
- ▶  $\varphi(3) = \varphi(7)$
- ▶  $\varphi(4) = \varphi(8)$
- ▶  $\varphi(5) = \varphi(1)$
- ▶  $\varphi(6) = \varphi(2)$
- ▶  $\varphi(7) = \varphi(3)$
- ▶  $\varphi(8) = \varphi(4)$

$$\therefore |\text{Fix}(\bar{\pi})| = a_1 + a_3 = 2 + 5 = 7$$

## 例 5 : 225 度回転の固定点

$\pi = 225$  度回転を表す置換



$\varphi \in \text{Fix}(\pi)$  とする

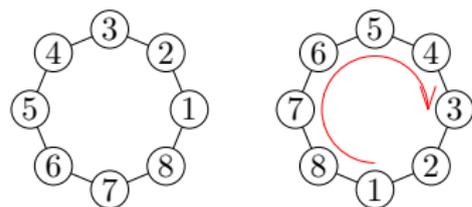
- ▶  $\varphi(1) = \varphi(4)$
- ▶  $\varphi(2) = \varphi(5)$
- ▶  $\varphi(3) = \varphi(6)$
- ▶  $\varphi(4) = \varphi(7)$
- ▶  $\varphi(5) = \varphi(8)$
- ▶  $\varphi(6) = \varphi(1)$
- ▶  $\varphi(7) = \varphi(2)$
- ▶  $\varphi(8) = \varphi(3)$

$\therefore$  すべての頂点の色は同じ

$\therefore |\text{Fix}(\pi)| = 1$

## 例 5 : 270 度回転の固定点

$\pi = 270$  度回転を表す置換



$\varphi \in \text{Fix}(\bar{\pi})$  とする

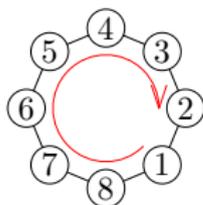
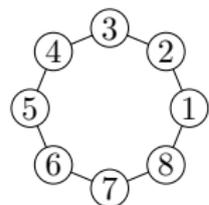
- ▶  $\varphi(1) = \varphi(3)$
- ▶  $\varphi(2) = \varphi(4)$
- ▶  $\varphi(3) = \varphi(5)$
- ▶  $\varphi(4) = \varphi(6)$
- ▶  $\varphi(5) = \varphi(7)$
- ▶  $\varphi(6) = \varphi(8)$
- ▶  $\varphi(7) = \varphi(1)$
- ▶  $\varphi(8) = \varphi(2)$

$\therefore \varphi(1) = \varphi(3) = \varphi(5) = \varphi(7)$  かつ  
 $\varphi(2) = \varphi(4) = \varphi(6) = \varphi(8)$

$\therefore |\text{Fix}(\bar{\pi})| = 3$

## 例 5 : 315 度回転の固定点

$\pi = 315$  度回転を表す置換



$\varphi \in \text{Fix}(\pi)$  とする

- ▶  $\varphi(1) = \varphi(2)$
- ▶  $\varphi(2) = \varphi(3)$
- ▶  $\varphi(3) = \varphi(4)$
- ▶  $\varphi(4) = \varphi(5)$
- ▶  $\varphi(5) = \varphi(6)$
- ▶  $\varphi(6) = \varphi(7)$
- ▶  $\varphi(7) = \varphi(8)$
- ▶  $\varphi(8) = \varphi(1)$

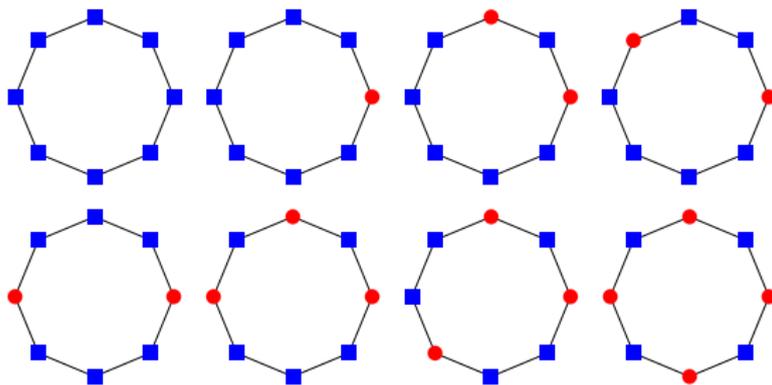
$\therefore$  すべての頂点の色は同じ

$\therefore |\text{Fix}(\pi)| = 1$

## 例 5：結論

バーンサイドの補題より，数えるべきものの総数は

$$\frac{1}{8}(47 + 1 + 3 + 1 + 7 + 1 + 3 + 1) = 8$$



# 目次

- ① 前回の復習
- ② 着色と置換群
- ③ 着色と置換群：例
  - 平面上の回転対称性を考慮した数え上げ
  - 平面上の回転・鏡映対称性を考慮した数え上げ
- ④ 制限された着色と置換群
- ⑤ 制限された着色と置換群：例
  - 円順列
  - 色数を固定した着色
  - 配置を制限した着色
- ⑥ 今日のまとめ

## 今日のまとめ

## 今日の目標

置換群を用いて **対称性を考慮した数え上げ** ができるようになる

- ▶ 着色の数え上げ
  - ▶ 例 1: 平面の回転対称性 ↪ 巡回群
  - ▶ 例 2: 平面の回転・鏡映対称性 ↪ 二面体群
- ▶ 制限された着色の数え上げ
  - ▶ 例 3: 全単射 (円順列)
  - ▶ 例 4: 色数を固定した着色
  - ▶ 例 5: 配置を制限した着色

## 次回の予告

対称性を考慮した数え上げ (発展)

- ▶ 立方体, 正八面体, その他の図形, ...

## 目次

- ① 前回の復習
- ② 着色と置換群
- ③ 着色と置換群：例
  - 平面上の回転対称性を考慮した数え上げ
  - 平面上の回転・鏡映対称性を考慮した数え上げ
- ④ 制限された着色と置換群
- ⑤ 制限された着色と置換群：例
  - 円順列
  - 色数を固定した着色
  - 配置を制限した着色
- ⑥ 今日のまとめ